

グローバル出荷指数(平成22年基準) について(平成26年第4四半期)

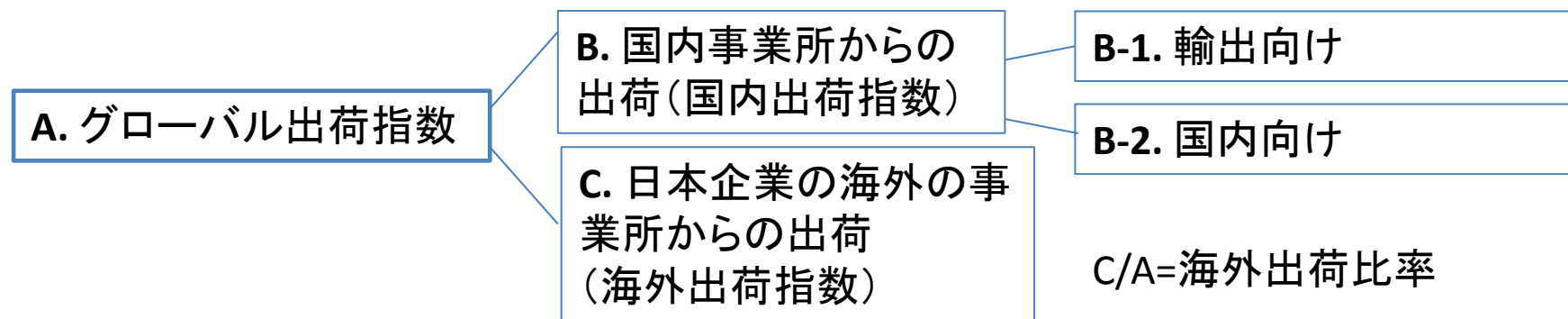
経済解析室
平成27年4月



ミニ経済分析URL: <http://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikeizai-result-1.html>

グローバル出荷指数とは？

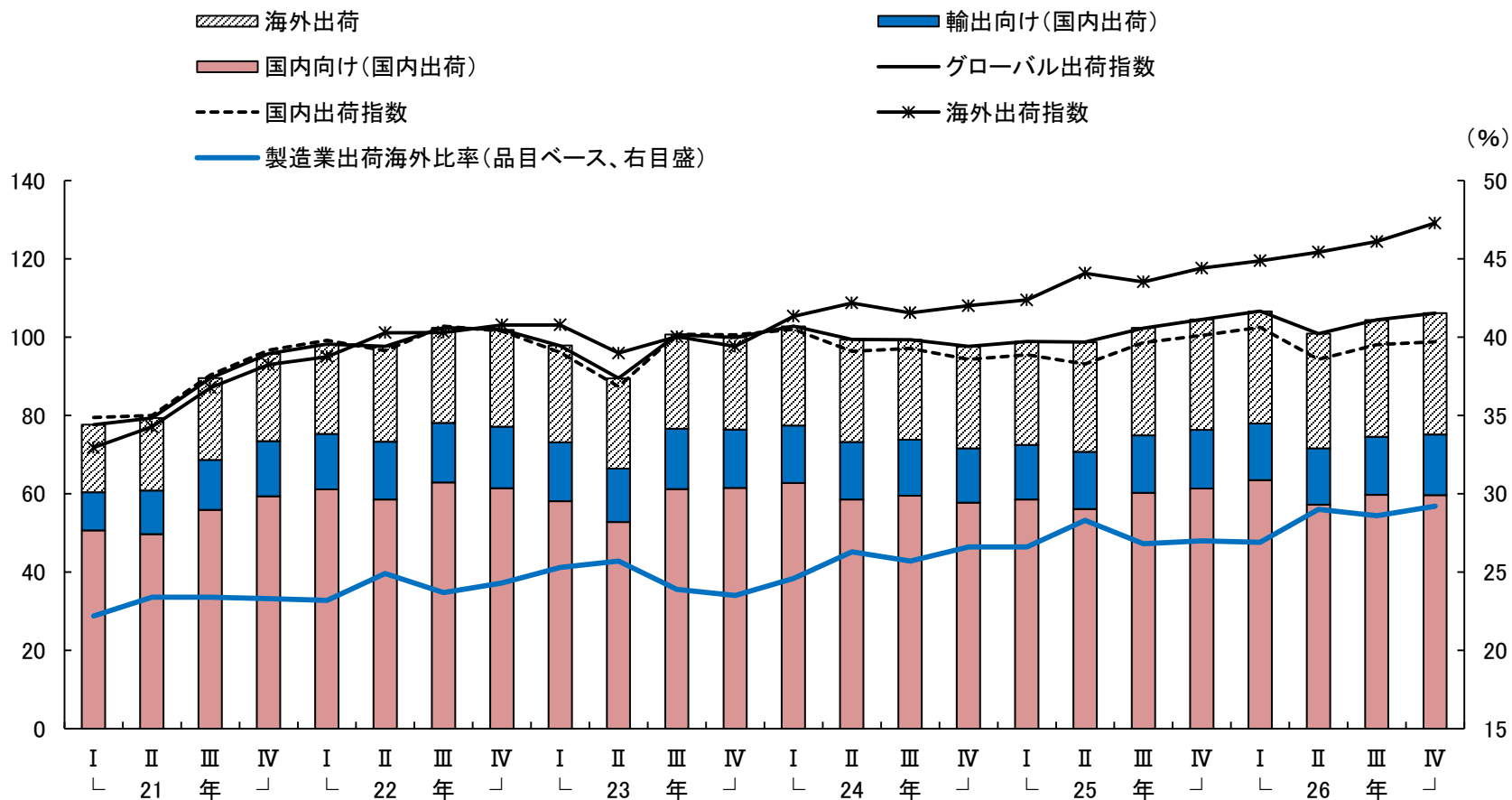
- 製造業のグローバル展開を踏まえ、国内外の製造業の生産動向を「業種別」に一元的に捉えようとした指標。



- 製造業の動向を事業所ベースで捉えることとし、「鉱工業出荷内訳表・総供給表」と「海外現地法人四半期調査」の組合せにより、**海外生産(出荷)比率等**を産出している。

製造業グローバル出荷指数の推移

26年Ⅳ期のグローバル出荷指数は前年同期比1.5%と6期連続の上昇となった。内訳をみると、国内向け出荷が同▲2.9%と2期連続の低下、輸出向け出荷が同3.7%と2期連続の上昇、海外出荷が同9.8%と12期連続の上昇となった。

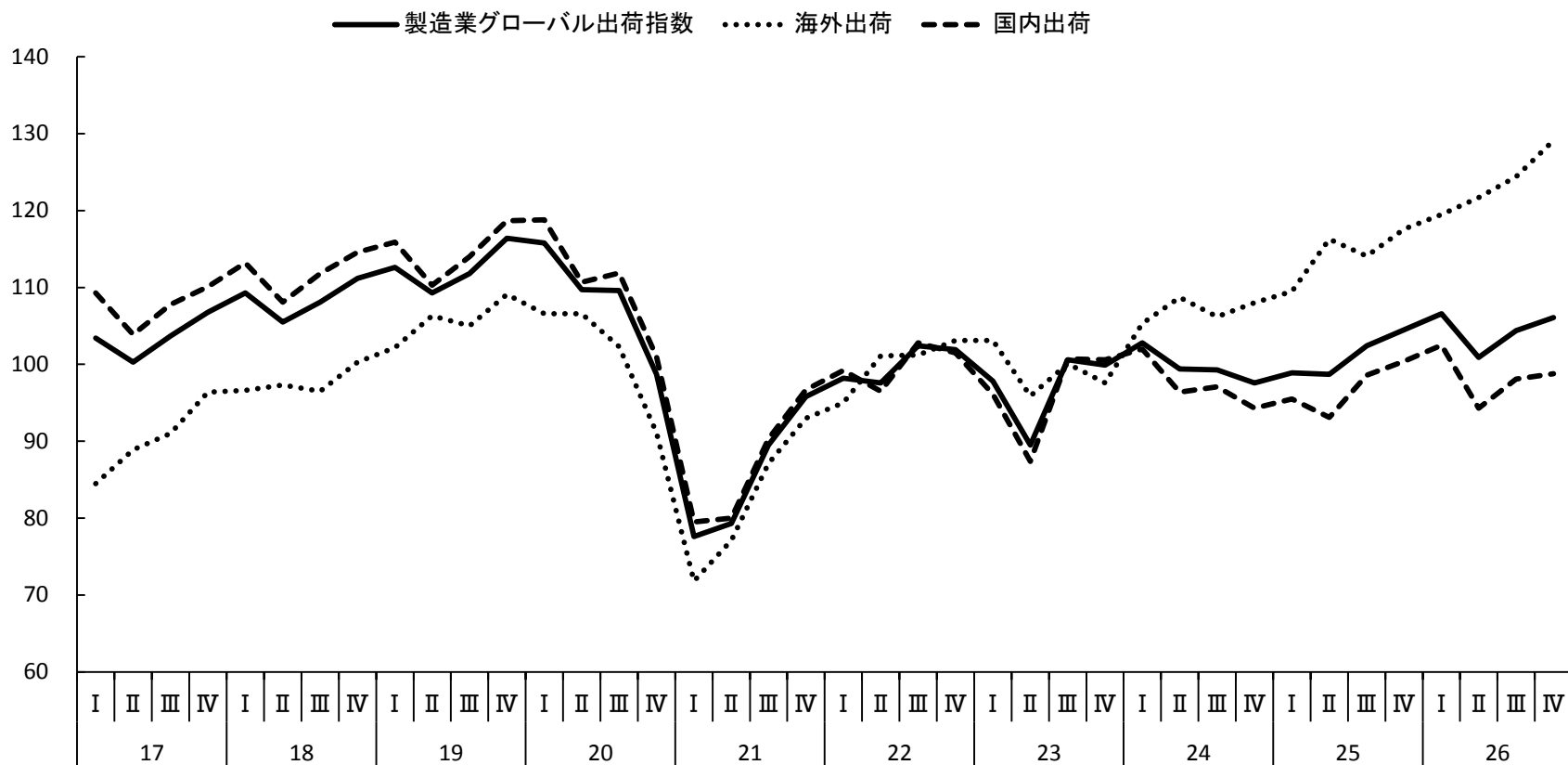


製造業グローバル出荷指数の推移

26年Ⅳ期の製造業グローバル出荷指数は、106.1となった。

その中で、海外出荷指数は129.1、国内出荷指数は98.8となった。

海外出荷指数は、引き続き上昇傾向で推移しており、国内出荷指数は26年Ⅱ期に大きく低下したがその後再び上昇に転じ、今期も上昇となった。

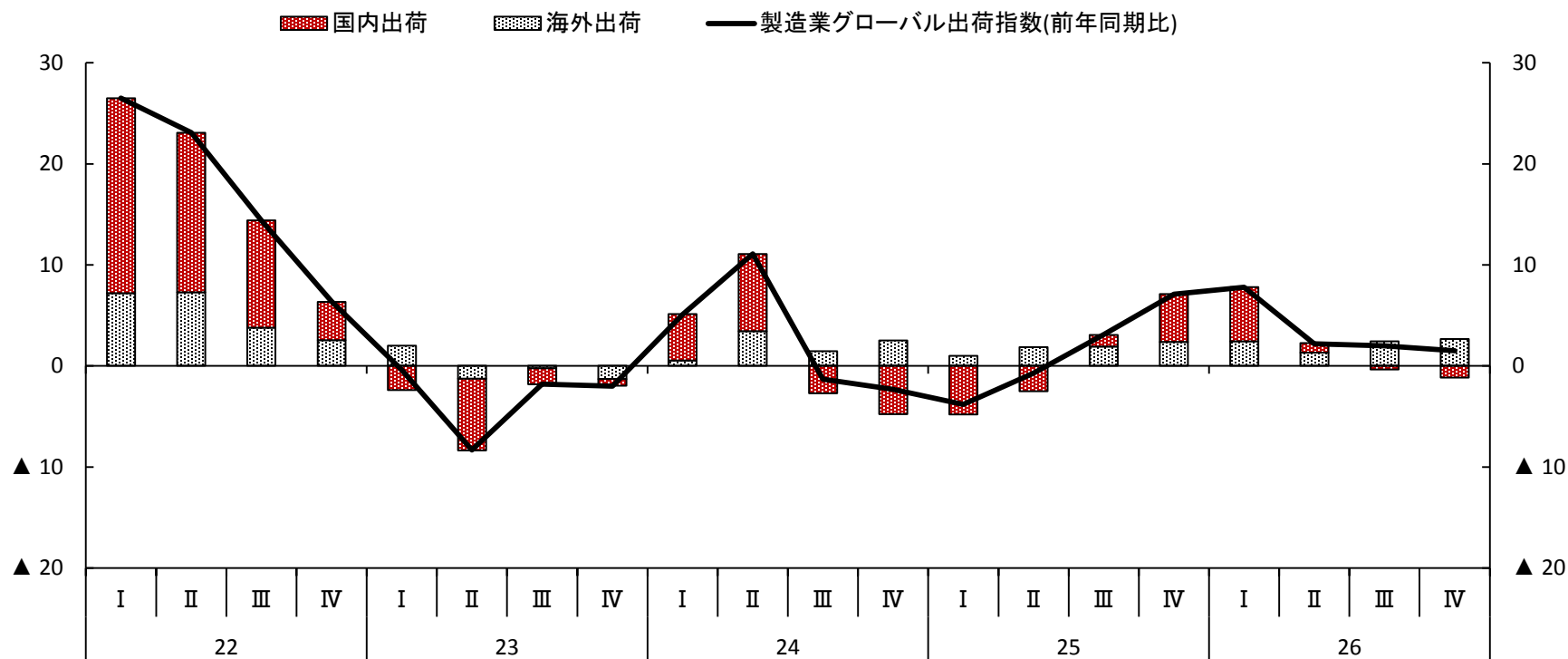


製造業グローバル出荷指数の推移(前年同期比、内外寄与度)

26年Ⅳ期の製造業グローバル出荷指数は、前年同期比1.5%上昇。海外出荷の寄与は同2.6%、国内出荷の寄与は同▲1.2%で、Ⅳ期の上昇は海外出荷によるもの。

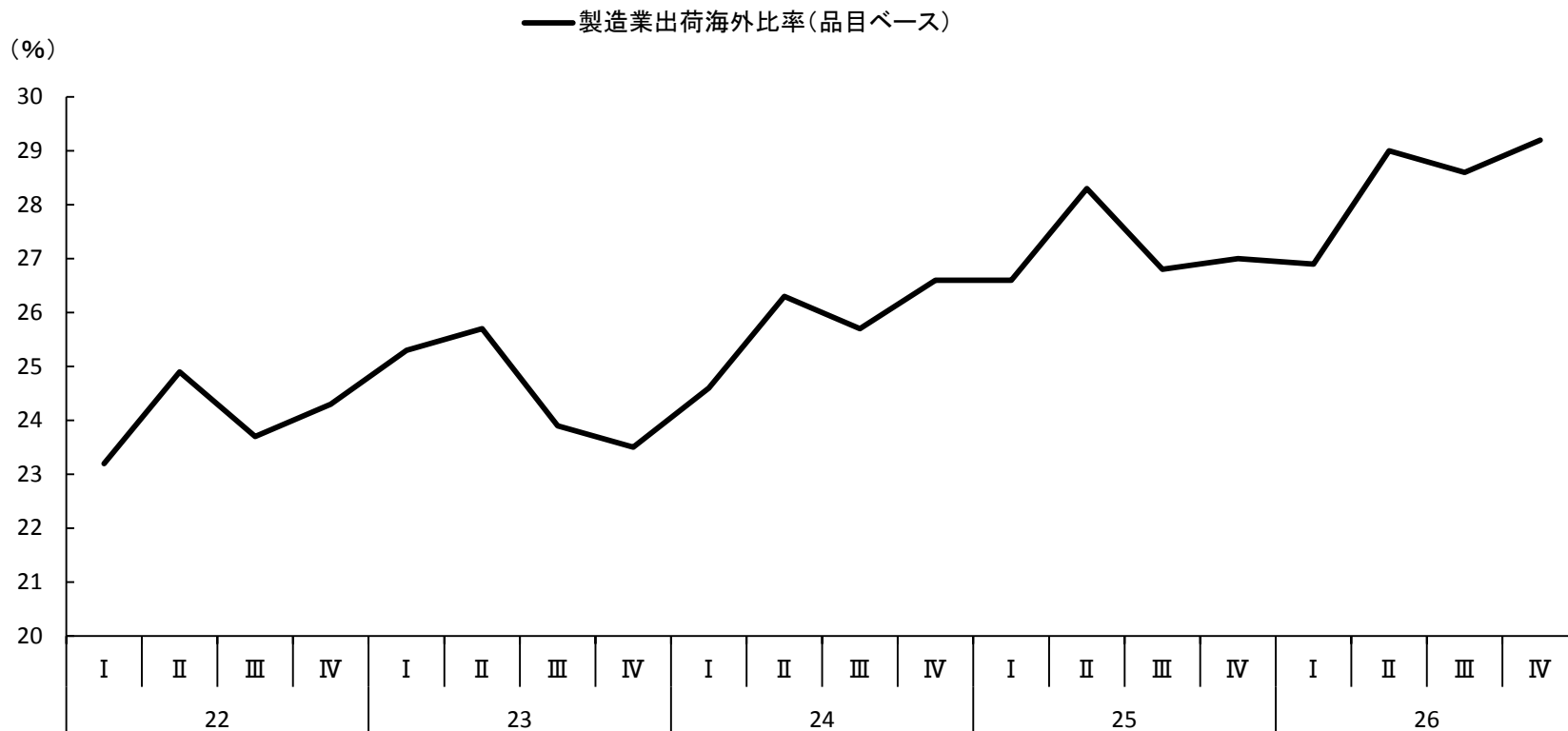
25年の前半は、国内景気が未だ回復過程にあったが、同年後半から国内出荷が大きく伸張し、消費増税の駆け込み需要の影響が発生した今年のⅠ期まで、その傾向が継続。

この間、グローバル出荷指数の前年同期比に対する海外出荷の寄与は、安定的にプラスで推移。



製造業出荷海外比率(品目ベース)の推移

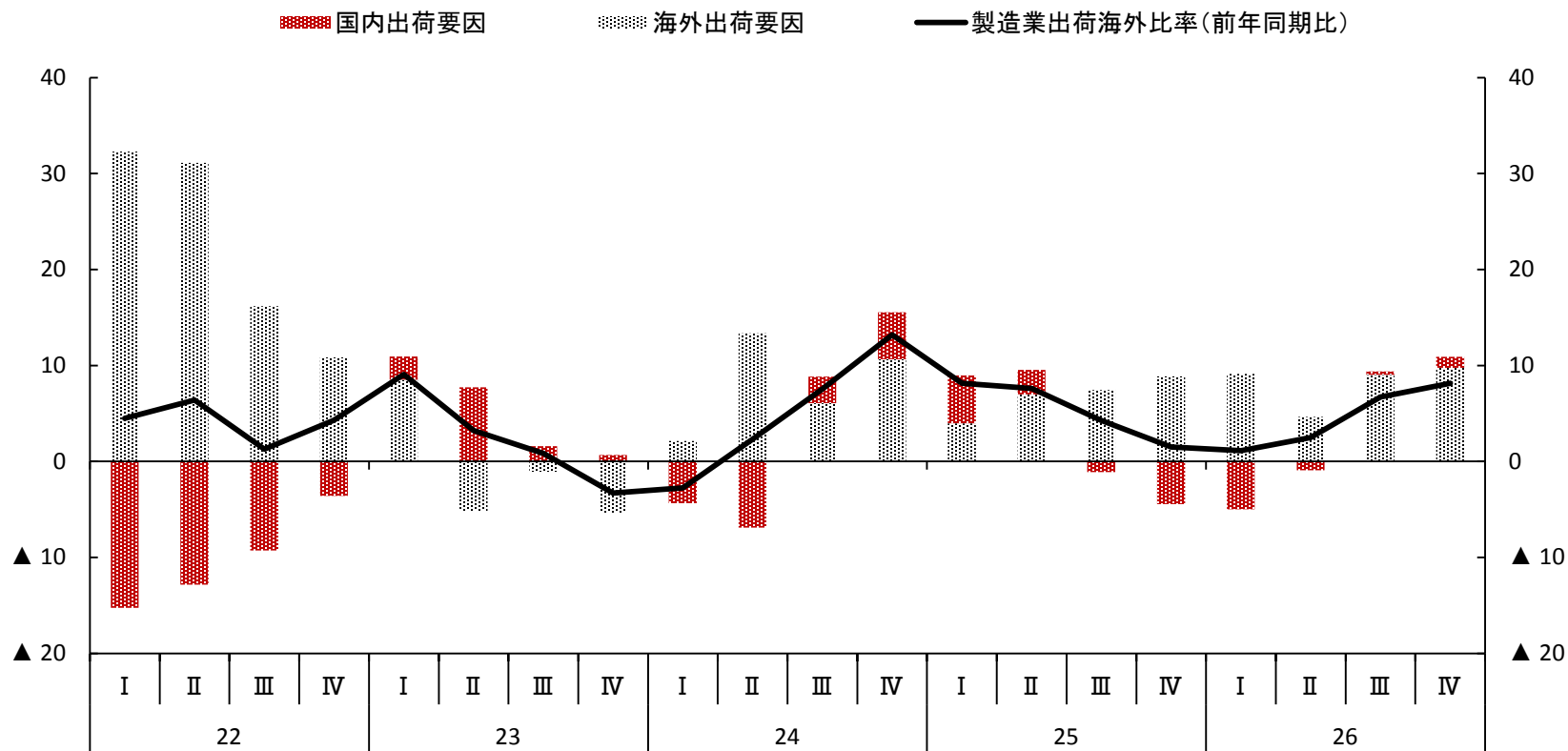
製造業出荷海外比率は、26年Ⅳ期で29.2%と過去最高の高さ。
昨年Ⅳ期の27.0%に比べると、海外出荷比率は上昇している。



製造業出荷海外比率の変動要因分解

26年Ⅳ期の製造業出荷海外比率は、前年同期と比べると上昇。

海外出荷比率の上昇に対し、海外出荷の前年同期比での増加である海外出荷要因の寄与は、国内出荷の同低下である国内出荷要因の寄与の9倍程度となっており、出荷海外比率の上昇は、引き続き海外出荷の増加によるもの。



26年Ⅳ期の特徴

- グローバル出荷指数は、駆け込み期の26年Ⅰの106.6に次ぐ高水準。リーマンショック後では、2番目に高い値。
 - 海外出荷の前年同期比上昇幅が安定的に推移する一方で、国内出荷の前年同期比は2期連続の低下。
 - 出荷海外比率は、過去最高値。
 - 出荷海外比率の上昇には、国内出荷要因もあるが、大部分は海外出荷要因が寄与。
- 引き続き、グローバル出荷のけん引役は、海外出荷の伸びにある。

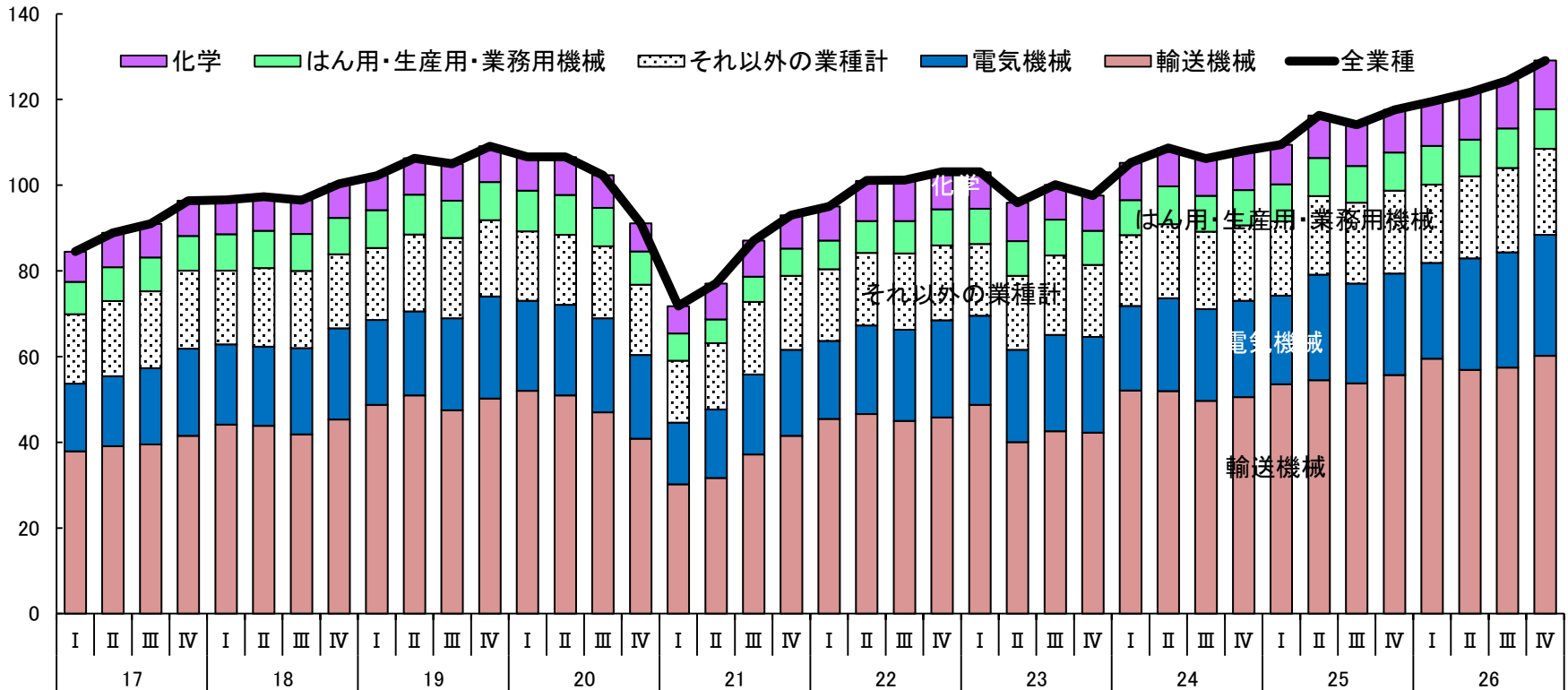
海外出荷指数の推移(業種別)

海外出荷指数においては、輸送機械の存在が非常に大きい。これに次ぐのが、電気機械。それ以外の業種の指数は、それほど大きな変動を見せていない。

注1) グローバル出荷指数における電気機械工業は、IIPにおける、電気機械、電子部品・デバイス工業、情報通信機械を合わせたものに相当する。

注2) それ以外の業種計とは、次の8業種を組み合わせたものである。

「食料品・たばこ」、「繊維」、「木材・パルプ・紙・紙加工品」、「窯業・土石」、「鉄鋼」、「非鉄金属」、「金属」、「その他」

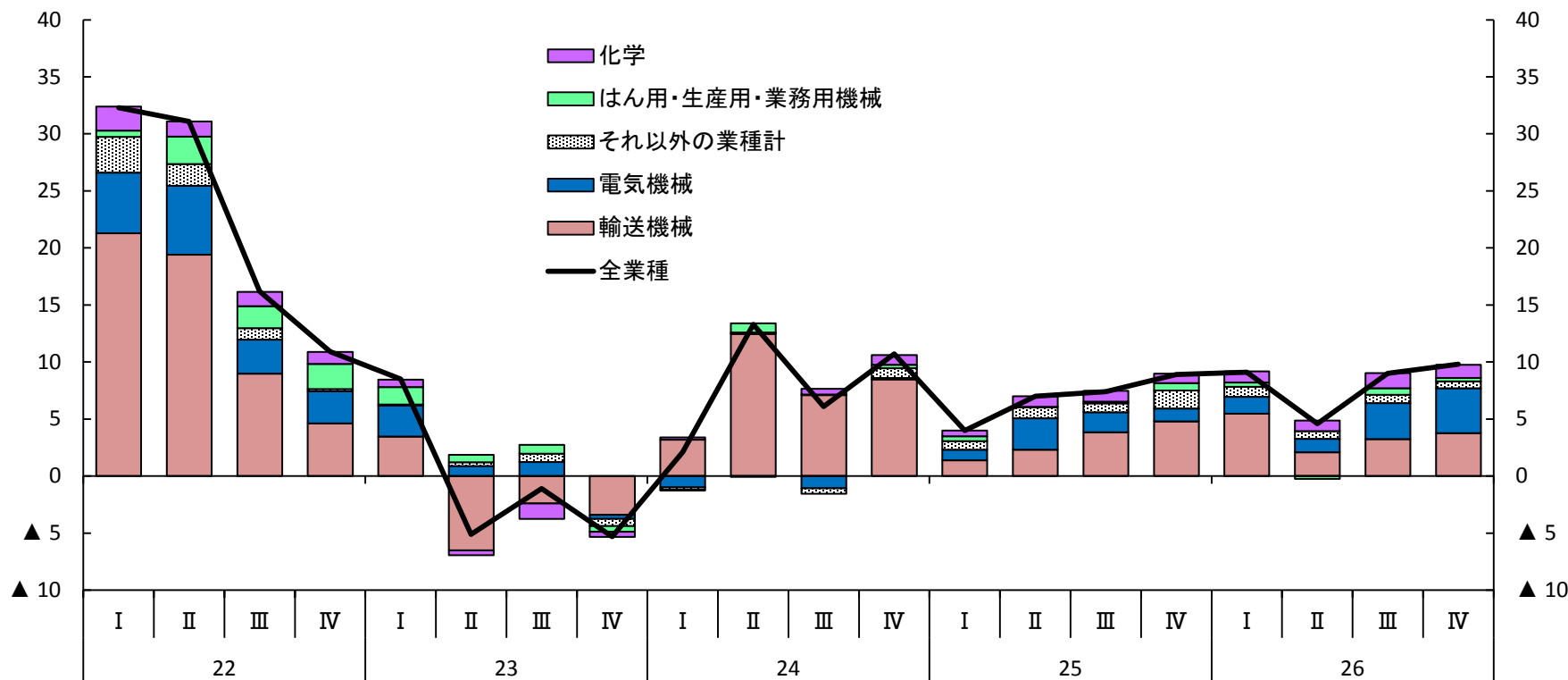


海外出荷指数の推移(前年同期比、業種別寄与度)

海外出荷指数の前年同期比の業種別寄与度を見ても、やはり輸送機械の寄与が大きい。海外出荷全体の前年同期比が9.8%だったことに対し、輸送機械の前年同期比寄与が3.77%だった。

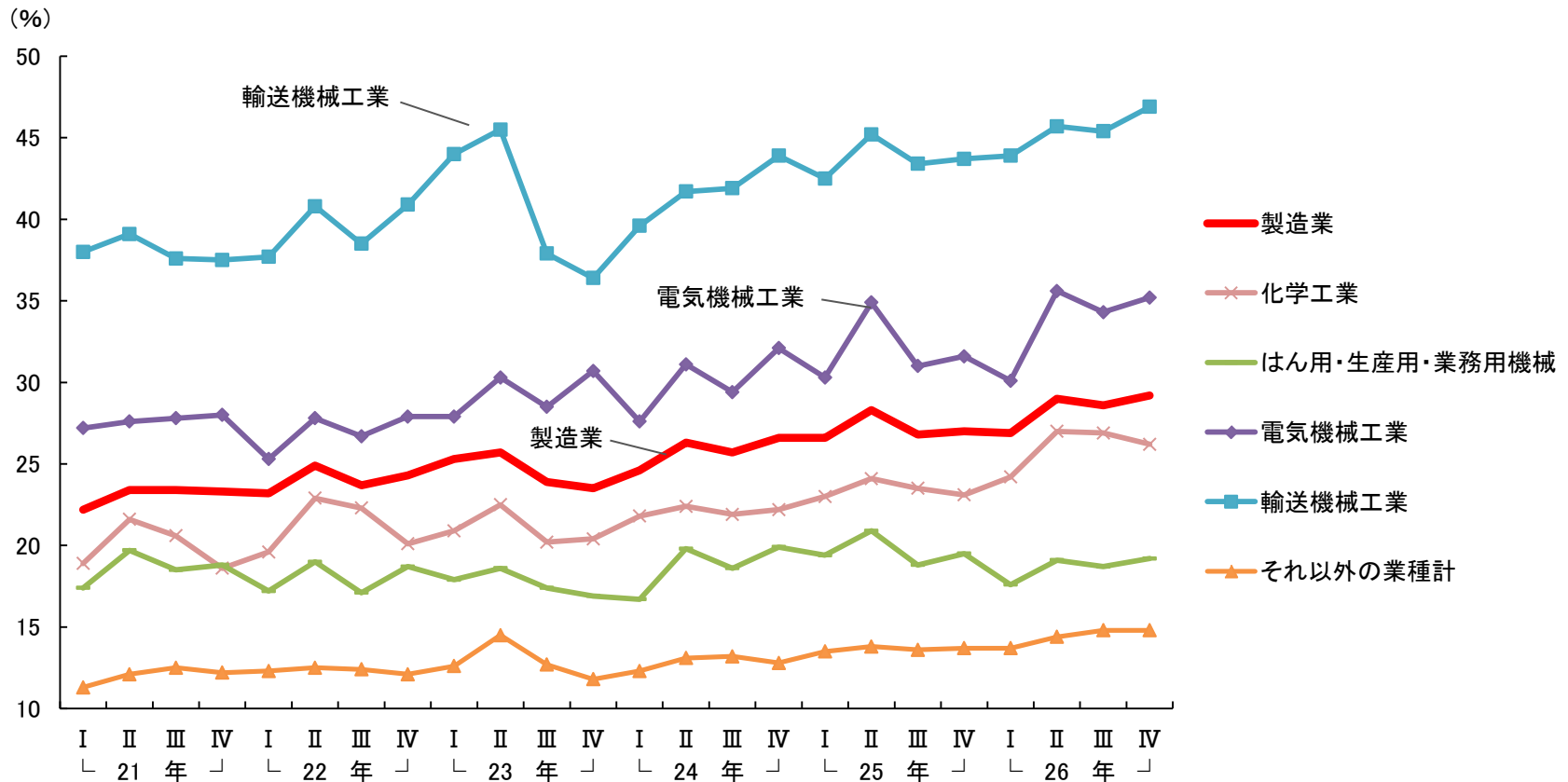
注) それ以外の業種計とは、次の8業種を組み合わせたものである。

「食料品・たばこ」、「繊維」、「木材・パルプ・紙・紙加工品」、「窯業・土石」、「鉄鋼」、「非鉄金属」、「金属」、「その他」



業種別製造業出荷海外比率の推移

26年Ⅳ期の製造業出荷海外比率は29.2%となり、前年同期比2.2%ポイントと11期連続の上昇となった。これを業種別にみると、全12業種のうち9業種が上昇し、3業種が低下となった。

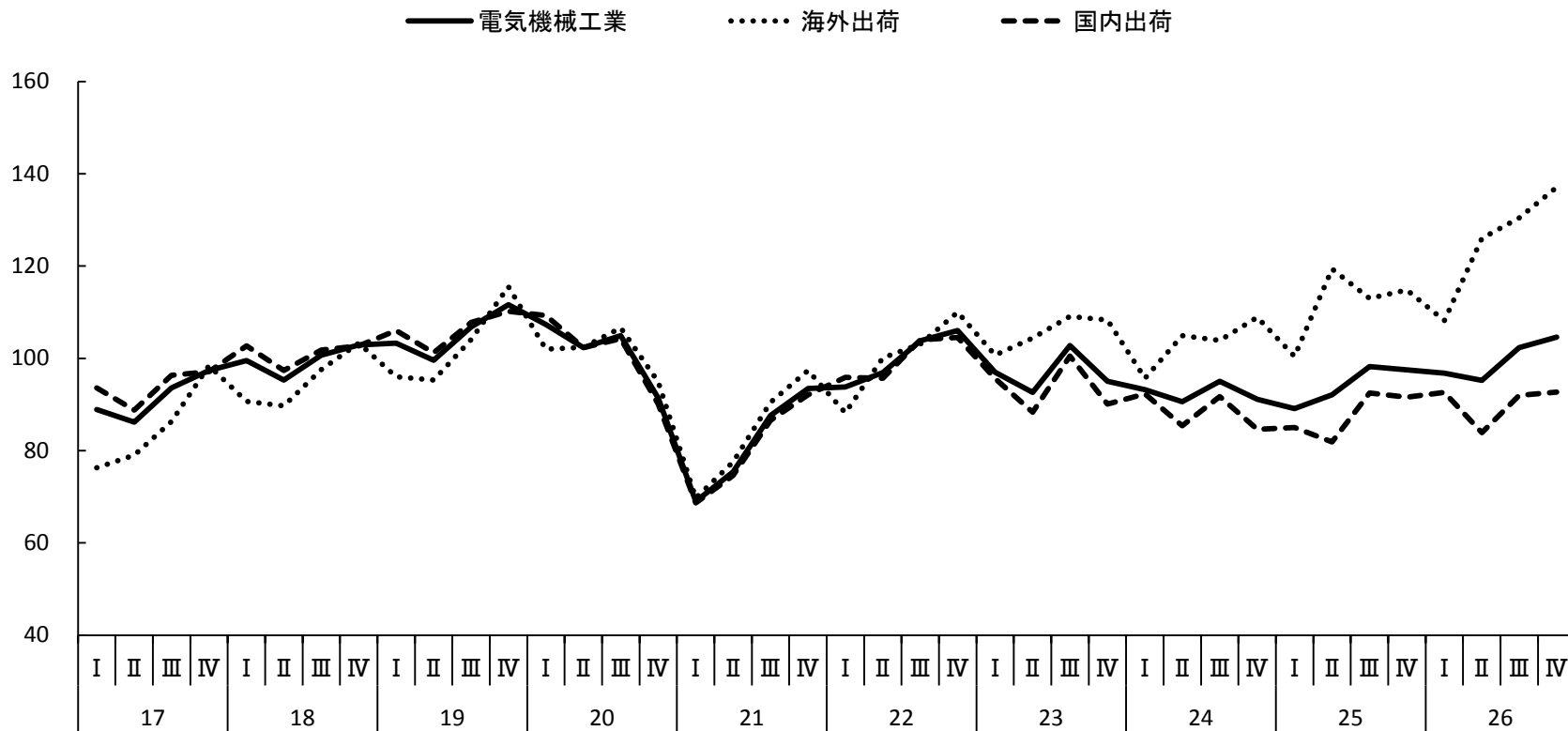


電気機械工業のグローバル出荷指数の推移

26年Ⅳ期の電気機械工業のグローバル出荷指数は、104.6となった。

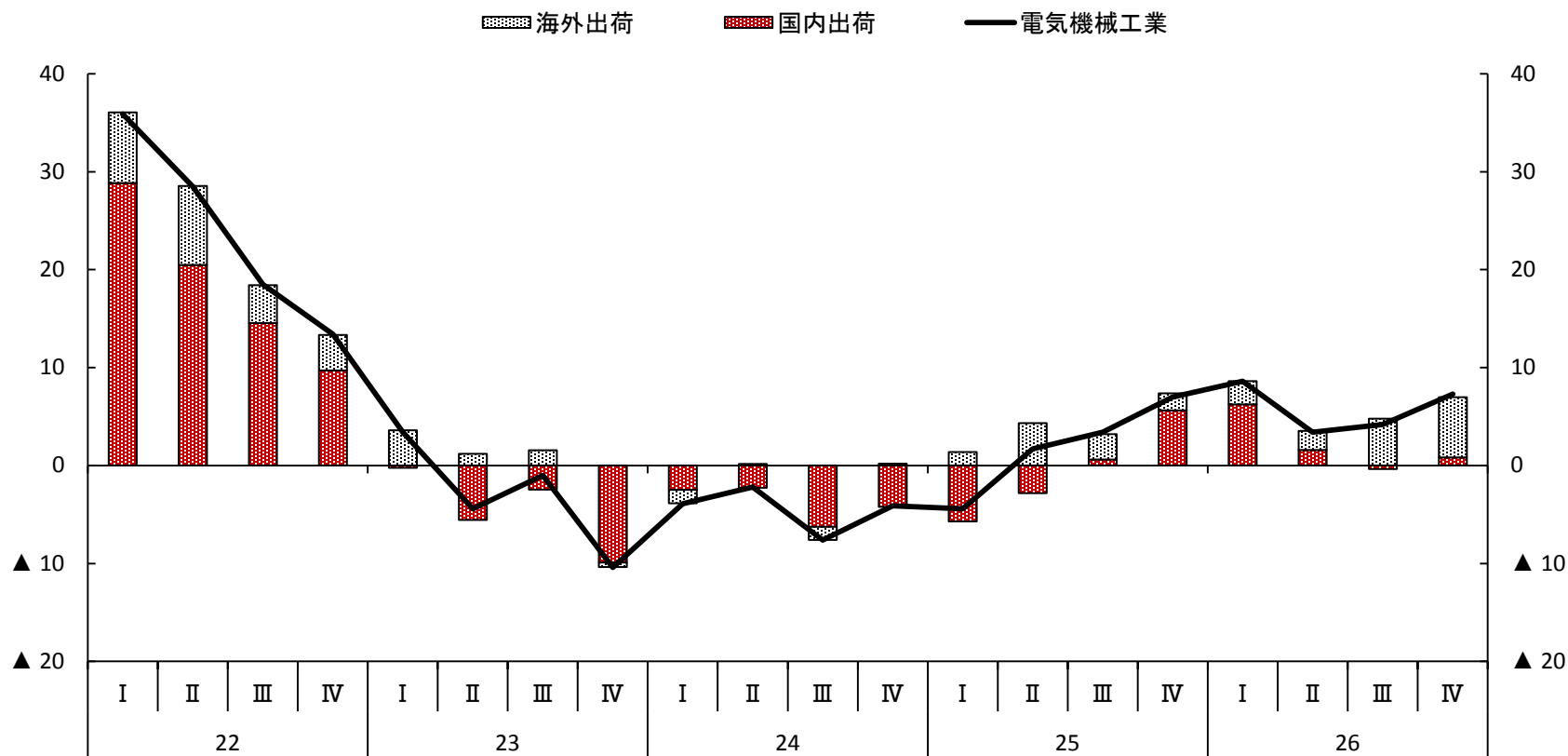
その中で、海外出荷指数は137.1、国内出荷指数は92.7となった。

海外出荷指数は、引き続き上昇傾向で推移しており、国内出荷指数は26年Ⅱ期に低下したがその後再び上昇に転じた。



電気機械工業のグローバル出荷指数の推移(前年同期比、内外寄与度)

26年Ⅳ期の電気機械工業のグローバル出荷指数は、前年同期比7.3%上昇。海外出荷の寄与は6.2%、国内出荷の寄与は0.8%となった。

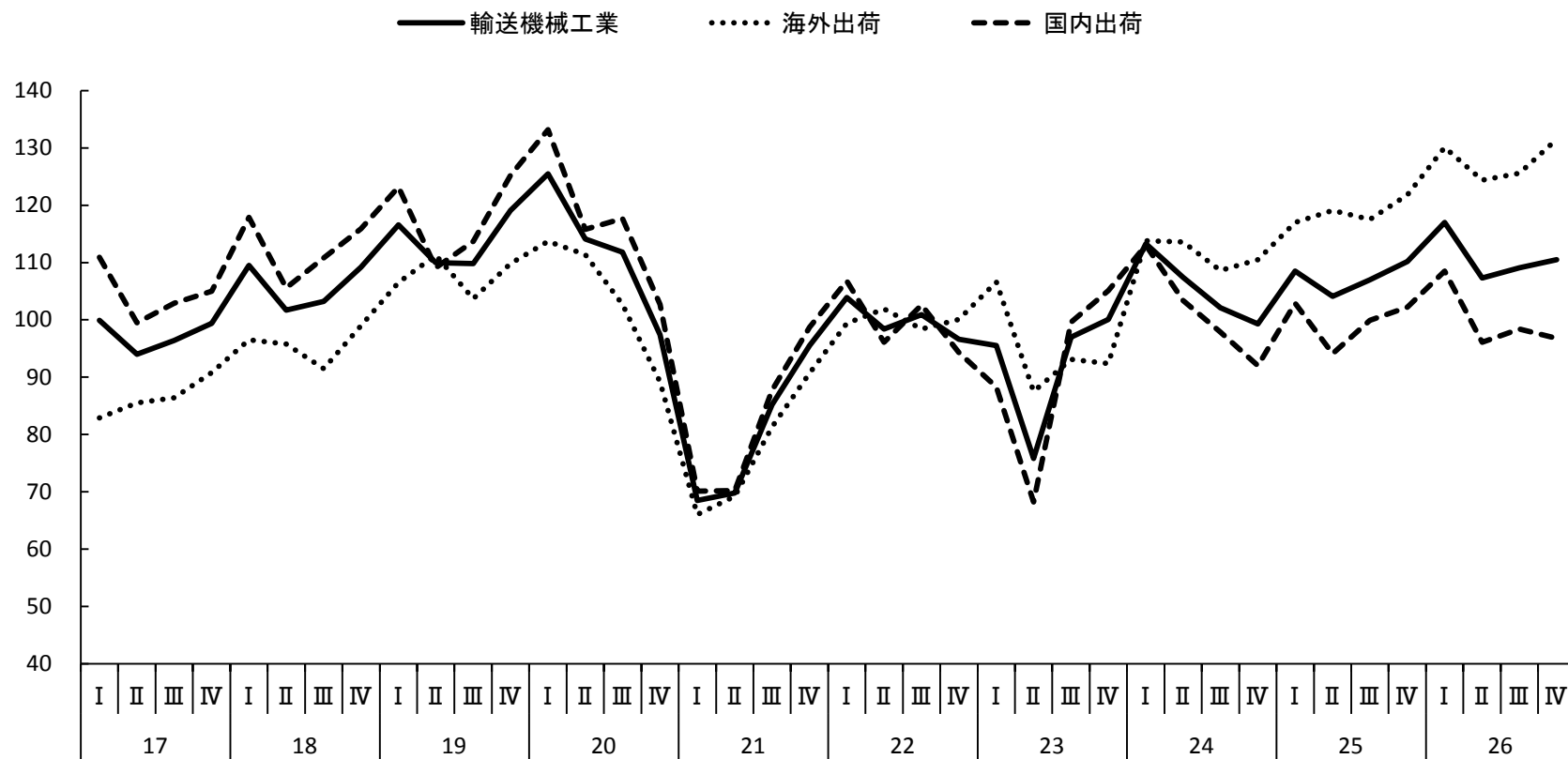


輸送機械工業のグローバル出荷指数の推移

26年Ⅳ期の輸送機械工業のグローバル出荷指数は、110.5となった。

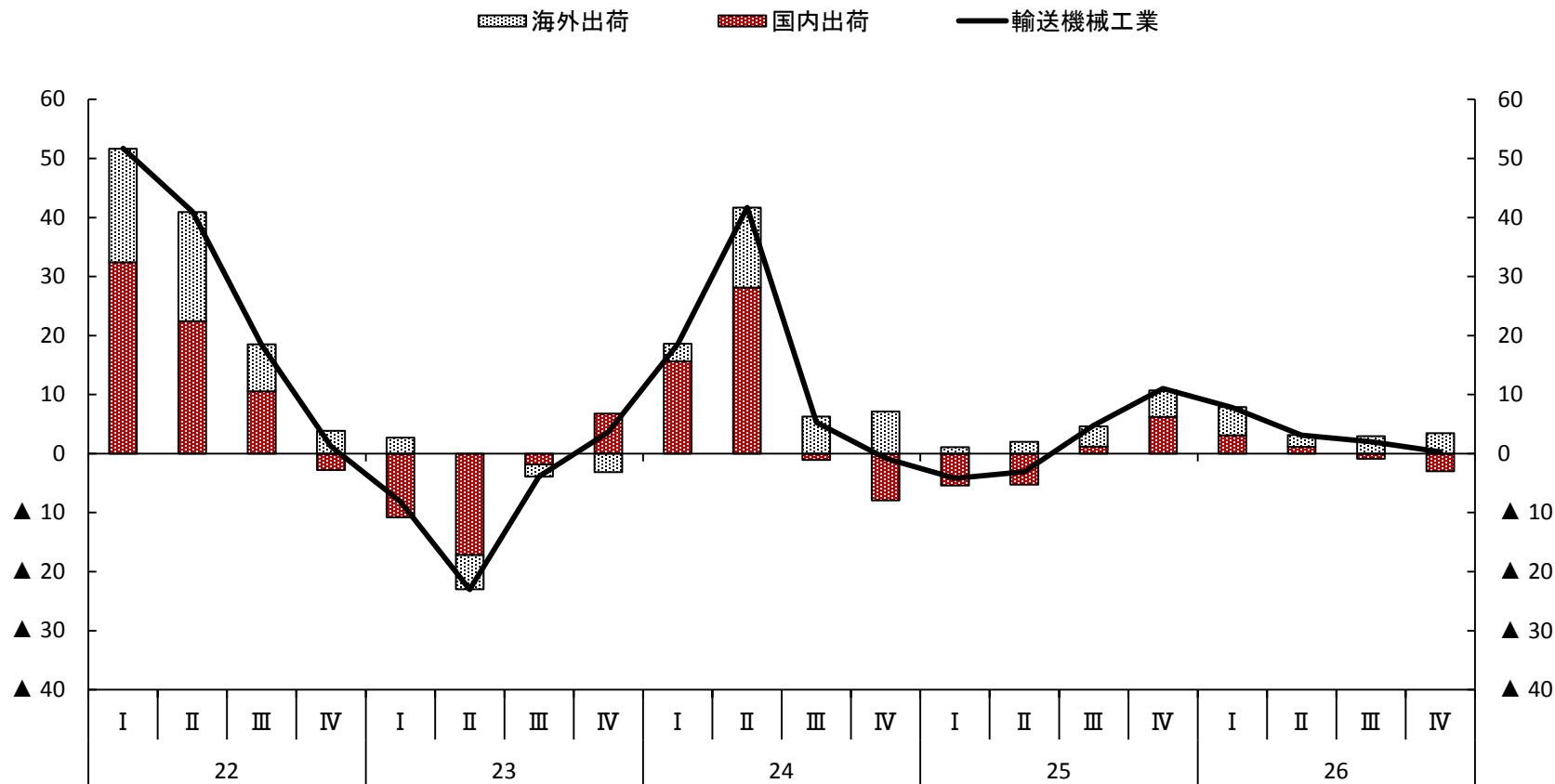
その中で、海外出荷指数は131.5、国内出荷指数は96.8となった。

海外出荷指数は、26年Ⅱ期に低下したがその後再び上昇に転じた一方、国内出荷指数は26年Ⅱ期に低下してⅢ期に上昇したが今期再び低下に転じた。



輸送機械工業のグローバル出荷指数の推移(前年同期比、内外寄与度)

26年Ⅳ期の輸送機械工業のグローバル出荷指数は、前年同期比0.3%上昇。海外出荷の寄与は3.5%、国内出荷の寄与は▲3.0%となった。



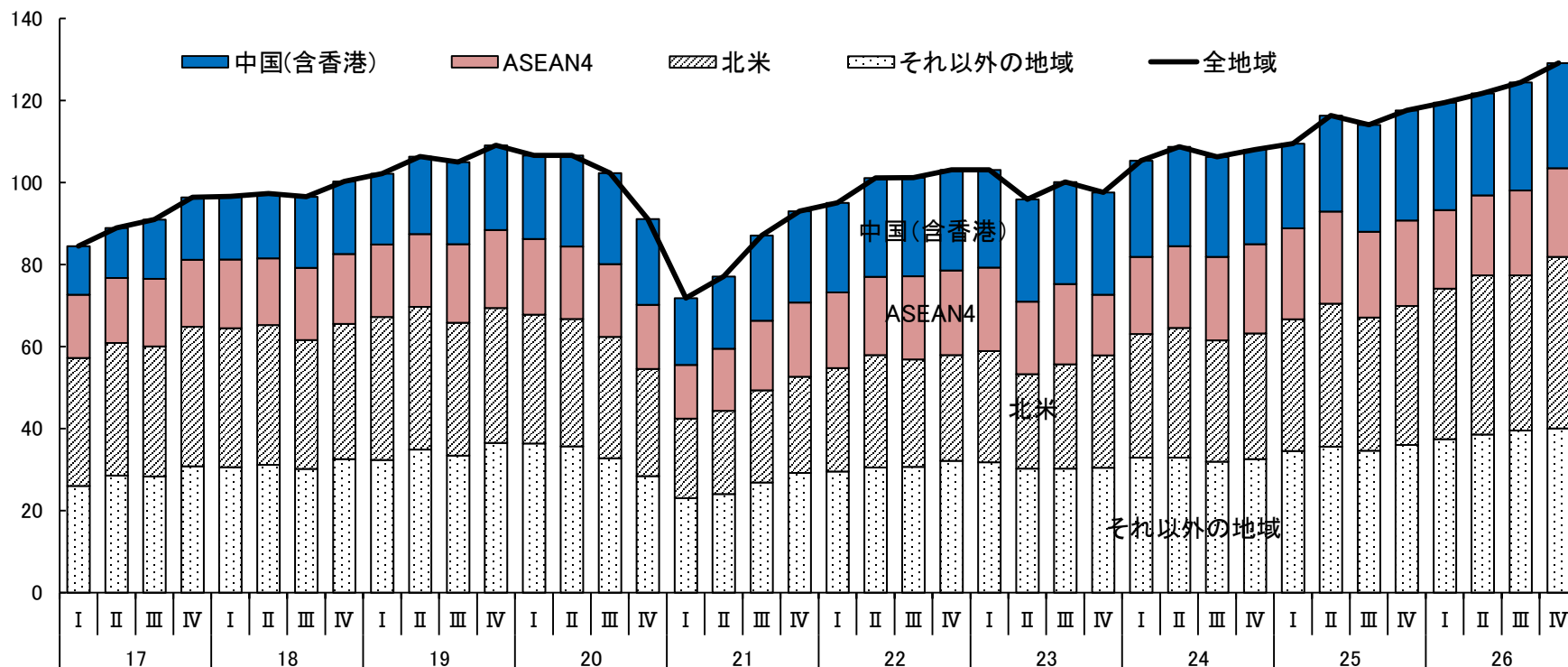
地域別海外出荷指数の推移

主要地域別の推移を見るため、海外現地法人四半期調査の売上高と輸入価格指数(財務省貿易統計)を用いて地域別のグローバル出荷指数を算出し、その推移を観察。

26年Ⅳ期の全地域出荷指数は129.1と過去最高。これに対し、北米指数は41.8で、これに次ぐのが中国(含香港)で25.6となっている。

注) それ以外の地域とは、次の4地域を組み合わせたものである。

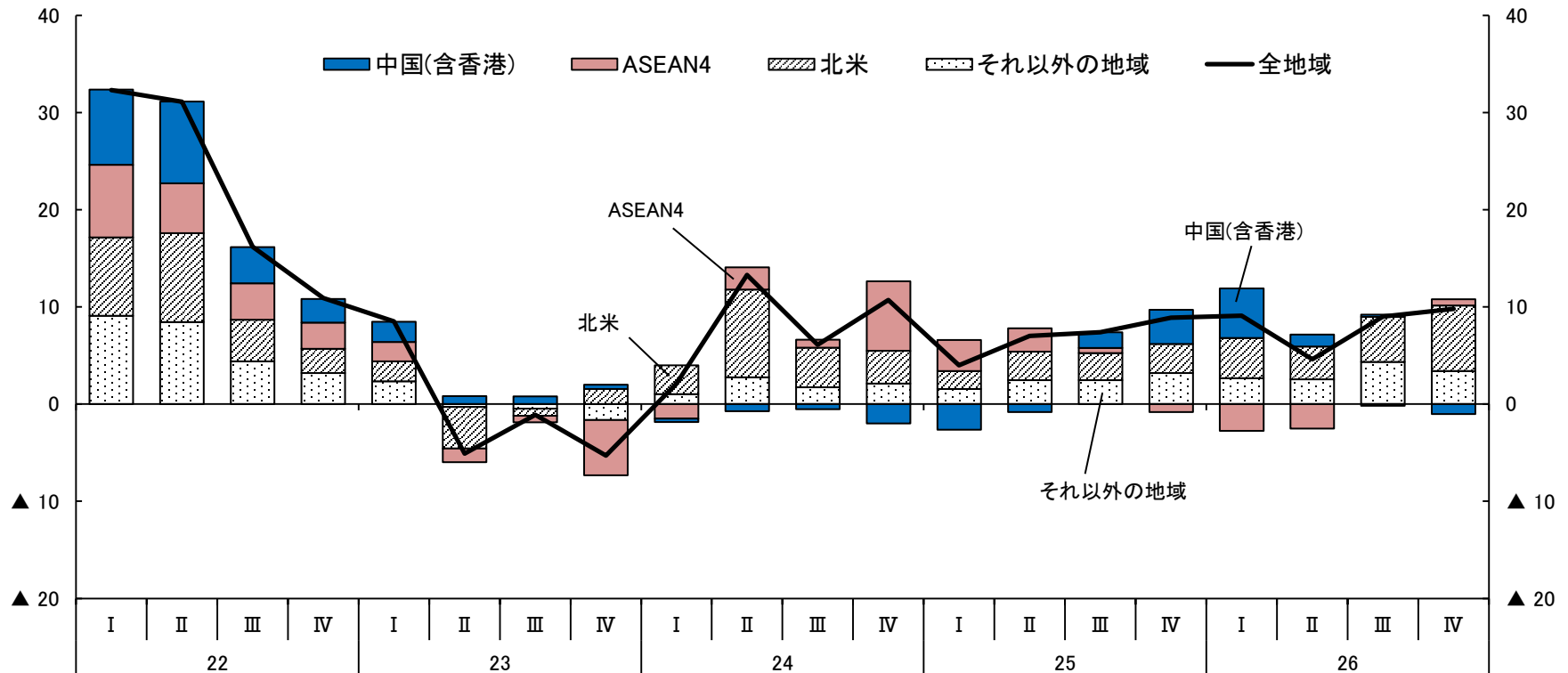
「NIES3」、「その他アジア」、「欧州」、「その他」



海外出荷指数の推移(前年同期比、地域別寄与度)

地域別海外出荷指数の前年同期比をみると、この1年ほどASEANの伸びはマイナス傾向が続き今期5期ぶりのプラスとなった一方、中国はマイナス寄与となった。26年のIV期については、安定的にプラス寄与の北米地域における現地法人の活動が「海外出荷」を支えていたことが分かる。

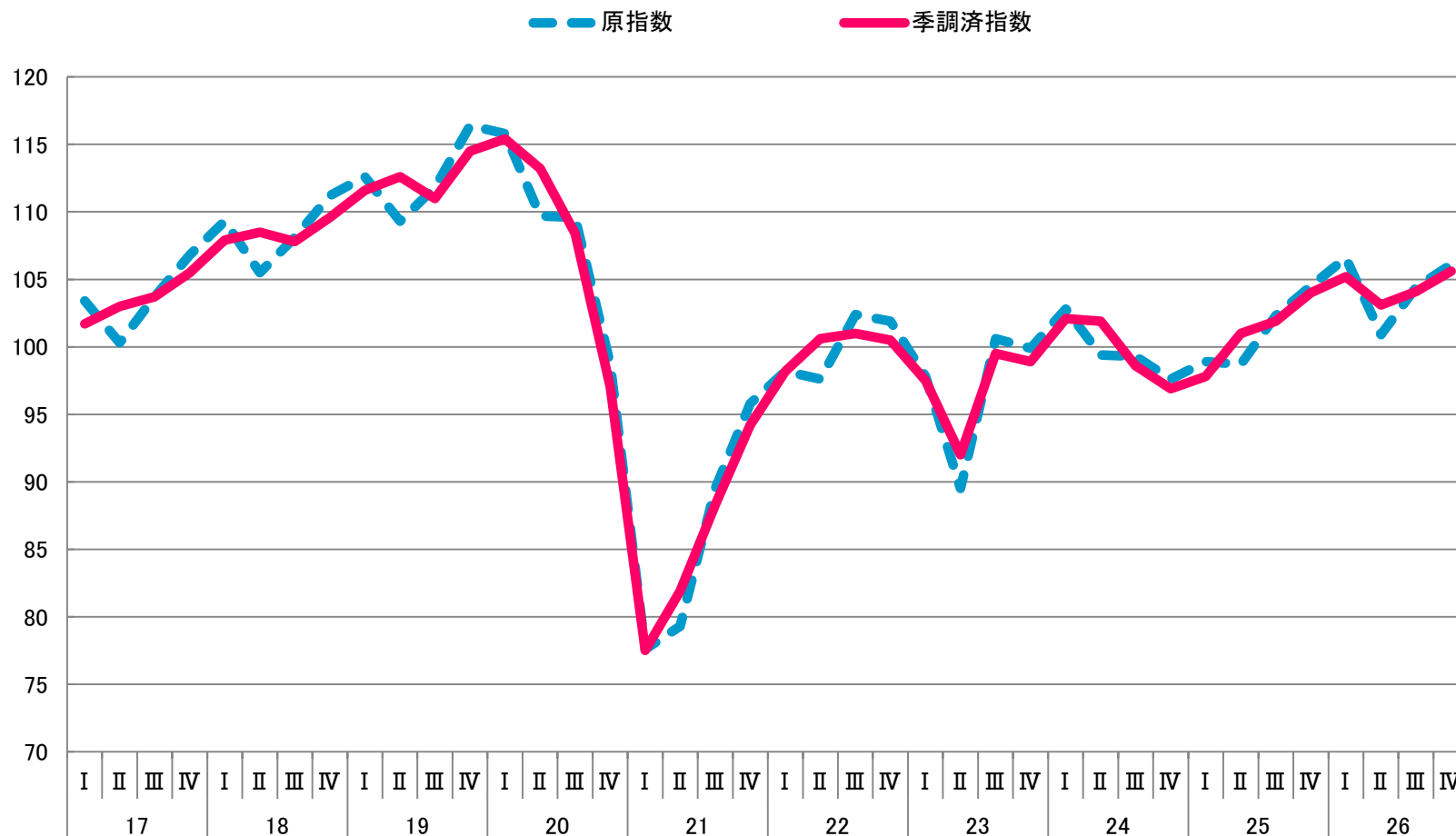
注) それ以外の地域とは、次の4地域を組み合わせたものである。
「NIES3」、「その他アジア」、「欧州」、「その他」



<参考> 試験的な季節調整系列

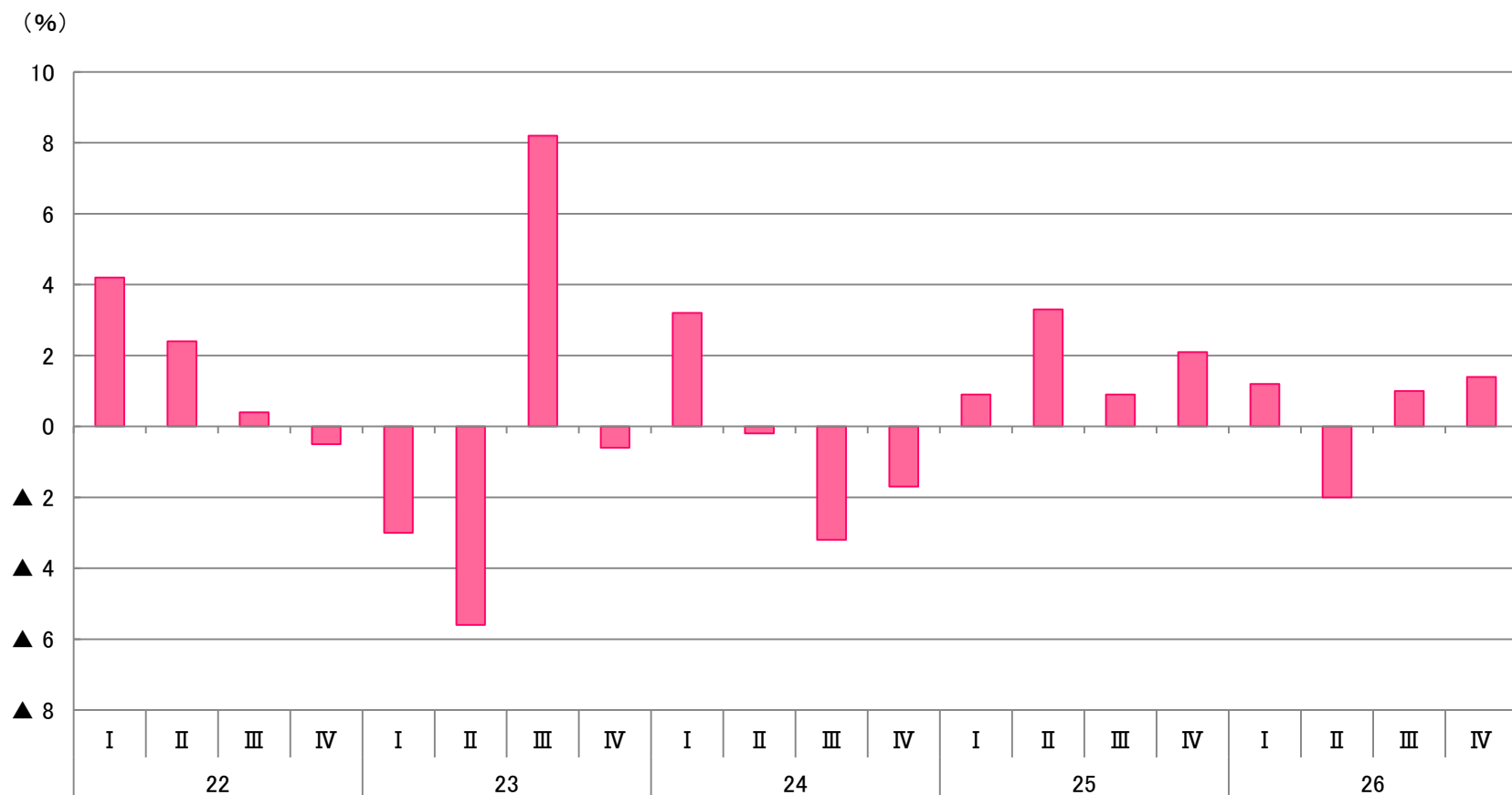
グローバル出荷指数について、試験的にX12-ARIMAの11-defaultで季節調整を実施。

26年Ⅳ期の原指数は106. 1、季節調整済み指数は105. 6。



グローバル出荷指数の前期比(試験値)の推移

試験的に季節調整したグローバル出荷指数で見ると、24年Ⅳ期の景気の谷から回復し、25年Ⅰ期から5期連続で、前期比プラスであったが、26年Ⅱ期では前期比▲2.0%低下した後、同年Ⅳ期は1.4%となっている。



注意点

- 本資料の試算を行う際に、使用するデータ（海外現地法人四半期調査、鉱工業指数、日銀輸入物価指数）が速報値から確報値へ塗り替えられることに伴い、本資料の数字も前の四半期の数字から変わる。
- このため、「産業活動分析 平成26年1～3月期」から「同10～12月期」その他の方法で過去に提供した、グローバル出荷指数の数値と、今回計算し直した数値には、違いが生じていることに留意。
- 年の表示は和暦であり、元号は特記しない限り原則として平成である。